

# MKI-IF1

## Buddycom\_Setup\_Guide v1.0.1



Produced by  SCIENCE ARTS

## 目次

1. 製品情報 .....	2
1.1. 仕様 .....	2
1.2. 各部の名称と機能 .....	2
1.3. 付属品 .....	5
2. Buddycom との連携.....	6
2.1. 外部機器・設備の音声を Buddycom へ入力する場合.....	6
2.2. Buddycom の通話音声を放送設備へ入力する場合 .....	7

## 1. 製品情報

MKI-IF1 は Buddycom と外部機器・設備を接続するオーディオインターフェースです。

Buddycom がインストールされたスマートフォンと外部機器・設備を接続することで、外部機器の音声を Buddycom へ入力したり、Buddycom の通話音声を放送設備へ出力することができます。

※接続する機器によっては雑音が入り混じったり、音声が伝わらない場合がございます。ご了承ください。

### 1.1. 仕様

- ・ 本体外形寸法：幅 20 x 奥行 13.5 x 高さ 4.2cm（音量つまみ部分含まず）
- ・ 質量（本体のみ）：約 500g
- ・ 消費電力：最大 3W
- ・ USB 給電電力：2.5W（5V/500mA max.）
- ・ 推奨保管・動作温度：0～+40℃

### 1.2. 各部の名称と機能



- ① 入力音量つまみ（INPUT 1, 2,3）  
INPUT1 / 2 / 3 に入力された音声の音量を調節します。左いっぱいへ回すと消音になります。
- ② 入力音量つまみ（OUTPUT 1）  
OUTPUT1 から入力された音声の音量を調節します。左いっぱいへ回すと消音になります。
- ③ MKI-IF1 内部接続概略図  
MKI-IF1 のに入力された音声の流れを示す概略図です。



④ INPUT1 入出力端子（CTIA 規格 3.5mm4 極ジャック）

Buddycom（OUTPUT1）と OUTPUT2 へ音声を送りたい機器を接続します。

スマートフォンなどの CTIA 規格に対応した機器を接続すると、OUTPUT1 端子から入力された音声を出力できます。（双方向通信）

端子のピンアサインは下記になります。

- 1：OUTPUT1 / 2 への入力
- 2：未接続
- 3：GND
- 4：OUTPUT1 からの出力

⑤ INPUT2 / 3 入力端子（3.5mm3 極ジャック）

Buddycom（OUTPUT1）と OUTPUT2 へ音声を送りたい機器を接続します。

音声の入力のみ対応しています。（単方向通信）

端子のピンアサインは下記になります。

- 1：OUTPUT1 / 2 への入力
- 2：未接続
- 3：GND



- ⑥ OUTPUT1 入出力端子（CTIA 規格 3.5mm4 極ジャック）  
 INPUT1 / 2 / 3 からの音声を入力したい機器を接続します。  
 スマートフォンなどの CTIA 規格に対応した機器を接続すると、出力された音声を INPUT1 へ出力できます。（双方向通信）  
 端子のピンアサインは下記になります。
- 1 : INPUT1 への入力
  - 2 : 未接続
  - 3 : GND
  - 4 : INPUT1 / 2 / 3 をミックスして出力
- ⑦ OUTPUT2 出力端子（3.5mm3 極ジャック）  
 INPUT1 / 2 / 3 からの音声を出力したい機器を接続します。  
 ミックスされた音声を、放送設備やスピーカー、ヘッドホン等へ出力する場合に使用します。  
 ※ヘッドホンアンプやアンプ搭載スピーカーの使用をお勧めします。
- ⑧ USB 給電用端子  
 Buddycom がインストールされたスマートフォンを充電するための USB 端子です。  
 充電機を使用した際、音声にノイズが乗る場合は、本端子を使用して充電してください。  
 ※スマートフォンの充電以外には使用しないでください。  
 機種により充電できない場合もあります。
- ⑨ 電源入力端子  
 付属の専用 AC アダプタを接続します。  
 ※付属している AC アダプタ以外は接続しないでください。
- ⑩ POWER インジケータ  
 電源が入力されている間に点灯します。

### 1.3. 付属品

#### 専用 AC アダプタ (1 個)



MKI-IF1 本体への給電に使用します。

入力電圧：AC100V, 50/60Hz, 14VA

出力電圧：DC5V 600mA

外形寸法：幅 5.5 x 奥行 4.9 x 高さ 8.2 cm

※突起部含まず

コード長：約 180cm

※AC100V のみ対応のため、日本国外での使用はご注意ください。

#### USB Type-A – 3.5mm ジャック変換ケーブル (1 本)



音声の端子を持たない PC から音声を出力される際にご使用ください。

※市販品のため、予告なく変更する場合があります。

#### 両端 3.5mm4 極プラグ付ケーブル (2 本)



音声出力機器と INPUT1 の接続と、OUTPUT1 とスマートフォンの接続に使用します。

#### 両端 3.5mm3 極プラグ付きケーブル (1 本)



音声出力機器と INPUT2 / 3 の接続に使用します。

## 2. Buddycom との連携

### 2.1. 外部機器・設備の音声を Buddycom へ入力する場合

①Buddycom をインストールしたスマートフォンを用意します。

※ヘッドホンジャックを搭載しないスマートフォンは、CTIA 規格対応の変換ケーブルが必要です。

②Buddycom の設定>共通>サブボタン右または左>VOX のショートカット を設定します。

③Buddycom の設定>トーク>VOX の設定 の項目を、以下の推奨設定に変更します。

- ・VOX のモード：Basic
- ・音量感度：Min（最低）
- ・切断する時間：2000ms

※実際に入力する音声の種類や音量に合わせて、適宜ご調整ください。

④外部機器・設備とスマートフォン、MKI-IF1 を下図のように接続します。



⑤Buddycom アプリの TALK 画面の VOX ボタンを押して、VOX 機能を有効にします。

VOX 機能の詳細は、[Buddycom ユーザーガイド](#)の「3.19 VOX (Voice Over eXchange)」をご参照ください。

⑥外部機器・設備で実際の音声を再生しながら、INPUT1 の入力音量つまみを時計回りに回します。

Buddycom アプリの通話ボタン周りの入力音量メーターが赤に達しない程度の音量に調整します。

⑦外部機器・設備から音声を再生して、Buddycom のグループメンバーに音声聞こえているか確認します。

### 注意事項

- ・音声を入力するグループは、必ず双方向通話設定にしてください。正しく音声伝わりがないことがあります。
- ・機器からアナウンスを再生する場合は、アナウンスの前に効果音を鳴らすことで、アナウンス音声の先頭が途切れることを防ぐことができます。

## 2.2. Buddycom の通話音声を送信設備へ入力する場合

①Buddycom をインストールしたスマートフォンを用意します。

※ヘッドホンジャックを搭載しないスマートフォンは、CTIA 規格対応の変換ケーブルが必要です。

②放送設備へ通話音声を流す専用のグループを作成します。

グループの作成方法は、[Buddycom 管理コンソールユーザーガイド 基本操作編](#)の「4.3 グループの管理」をご参照ください。

③Buddycom の設定>サウンドボリューム で、「音声」以外の音量を無音にします。

※「マスターミュート」は有効にしないでください。

④サイレントモードにするなど、スマートフォンが発するすべての通知音が鳴らない設定にします。

⑤放送設備とスマートフォン、MKI-IF1 を下図のように接続します。



⑥他のスマートフォンの Buddycom から、放送設備へ通話音声を流す専用のグループへ発話しながら、INPUT1 の入力音量つまみを時計回りに回します。放送設備へ送られる通話音声を聞きながら音声割れがない、小さすぎない音量に調節します。

### 注意事項

- ・スピーカーから再生された発話音声をマイクが拾ってしまい、ハウリングが発生する恐れがあるため、放送設備へ音声を流す専用のグループで発話する際は、イヤホンマイクを使用して、なるべく放送設備のスピーカーから離れた場所で発話をしてください。
- ・放送設備へ音声を流す専用のグループでの発話後は、必ず元の通話用グループへ戻してください。メンバー間の会話内容が放送設備から流れる原因となります。